【令和8年度】　エシカファーム　ガイドライン評価改善シート

事業所名：　　スタジオパレット

作成日：令和8年　9月　24日

本部	代表	施設長
田中	風間	名倉

前年度　施設目標	前年度の改善への取り組み	・関係機関との関係の維持、市ミーティングや研修などへの積極的な参加の継続。 ・支援その他、素朴な疑問等への返答の機会を設ける。（面談、その他） ・ご家族が気軽に参加できるイベントや参観、見学会などの企画の検討。 ・職員研修をアウトプットする機会の検討。 ・活動イベントのリフレッシュ（内容・参加方法についての検討）。 ・障害特性と個別の評価に基づいた支援について改めて整理し、「わかる」「できる」機会を増やすことで安心と自尊心を高められる支援に努める。 ・本人の生活や生き方を豊かにするお手伝いとして、事業所内での支援だけでなく生活全般を見据え、関係機関やご家族との交流や協働を意識していく。
	前年度の施設目標 （支援方針）	・ご家族との協働。「見える」事業の展開。 ご家族が見学・参加しやすいオープンな場を設け、ご意見・ご感想等を頂くことで新しい気づきや活動に繋げていく。

項目	保護者評価、事業所内評価を踏まえた上での共通点	保護者評価、事業所内評価を踏まえた上で相違点
環境・体制整備	・概ね整備しているが、限られたスペースの中で、どのような環境で活動しているか保護者様には見えていないのかもしれない。	・限られた活動スペース内を再構造化し、利用者様が上手く利用して活動に取り組んでいる姿を見て頂く機会を設け、ご意見を伺うことで新しい気づきを得られるか。
業務改善	・職員の配置、専門性や情報が保護者には見えにくい。 ・男性利用者様が多く利用している2Fには、男性職員を配置し、必要に応じて同性介助を行なっている。また必要に応じて、1F、2F職員のヘルプを行なっている。	・月のおたよりなどで職員情報や支援についての情報伝達が行なえていないのか。
適切な支援の提供	・個別化した活動内容が提供出来る様工夫しているが、実際の様子を保護者が見る機会は少ない。	・常に見学できることが伝わっていないか。
関係機関や保護者との連携	・市のネットワークミーティングなどに積極的に参加し、 相談支援事業所やGHなどとの支援の連携も行なっている。	・GH（入居・ショートステイ）と支援連携しているケースがあることが伝わっていないか。
本人（家族）への説明責任等	・基本的な情報は提供できていると考えているが、考え方によっては相違はあるのかもしれない。	・面談時に疑問や質問を受け入れる時間が足りていないか。
非常災害等への対応	・訓練が固定化され、訓練詳細までご家族に伝わっていないのではないか？	・ご家族への情報提供やお便り等での報告を徹底していく。 ご家族参加型の訓練等も行なっていきたい。
支援プログラム	・マンネリ、固定化したプログラムから少しずつ脱出・変化しようと今までにない企画をしている。	・ご家族へのアンケートや面談、送迎・お迎え時などにご意見を伺うなど新しい取り組みを行なっていきたい。

事業所の強み	事業所の改善点
・生活介護設立当初（アルテから）から勤めている職員が多く、職員が定着し、利用者様の特性・人となりの理解があり、利用者様との信頼関係が構築している。 ・法人単位で研修受講やコンサルの先生を入れて下さることにより、学びを深めることができ、職員のスキルアップに繋がっている。 ・職員ひとりひとりが穏やかで職員間、利用者様にやわらかく接することができ、明るく雰囲気も良い。職員間の信頼関係も構築され、支援について色々な意見を出し合える関係が続いている。	・昨年度より「パレットまつり」と称して、保護者参観、見学の機会を設けている。しかし、いつでも参観されてよいことなどは伝わっていないのかもしれない、１人では行きづらいのかもしれない。 ・限られたスペースの中で利用者様が穏やかに活動出来るよう工夫しているが、それをお伝えする機会が少ないのかもしれない。 ・コンサルについて、保護者様にお知らせする機会がない。コンサル前、コンサル後など保護者様にお伝えする機会を設けていきたい。

評価を行っての事業所としての感想など
・長く利用して下さっている方も多く、安心してお任せして下さっているというお話も伺い大変感謝している。 ・限られたスペースの中で色々な活動ができるよう調整している。スペースを増やすことは難しいが、全体シナリオで1人1人の活動調整を行ない、活動に影響がないよう工夫していきたい。 ・職員が定着していることは強み。社員、パート職員ひとりひとりが穏やかで感謝の気持ちを持って勤務することが、利用者様の安定や穏やかな毎日に繋がっているひとつと考えている。 ・大きな事故もなく、1日１日安全に過ごすことが出来ている。今後も安心安全第一に過ごすことを前提に、障がい特性の理解、個別化した支援、些細なヒヤリハットを気づきにして大きな事故が起きないよう職員全員で考えていきたい。

来年度　施設目標	改善への取り組み	・関係機関との関係の維持、市ミーティングや研修などへの積極的な参加の継続。 ・支援その他、素朴な疑問等への返答の機会を設ける。（面談、その他） ・ご家族が気軽に参加できるイベントや参観、見学会などの企画。 ・職員研修をアウトプットする機会の検討。 ・活動イベントのリフレッシュ（内容・参加方法についての検討）。 ・障がい特性と個別の評価に基づいた支援について改めて整理し、「わかる」「できる」機会を増やすことで安心と自尊心を高められる支援に努める。 ・本人の生活や生き方を豊かにするお手伝いとして、事業所内での支援だけでなく生活全般を見据え、関係機関やご家族との交流や協働を意識していく。
	施設目標 （支援方針）	・「見える・わかりやすい」事業の展開。 ・ご家族が見学・参加しやすいオープンな場を設け、ご意見・ご感想等を頂くことで新しい気づきや活動に繋げていく。 ・障がい特性や個別の評価に基づいた支援を行ない、ひとりひとりが日々安心して穏やかに過ごせる環境の提供。 ・親亡き後、またその前の近い今後に向けて、関係機関との連携、支援共有などを行ない、御本人御家族共、安心して年を重ねていけるよう支援していく。